

学校教育目標	「互いのよさを認め合い、生き生きと学びあう子」 ○自分らしさを発揮し、互いのよさを認めあう子どもを育てます。(知) ○豊かな体験をもとに、自ら考え判断し、ねばり強く行動する子どもを育てます。(徳) ○健康を考え、生命と体を大切にしている子どもを育てます。(体) ○まちとのふれあいを大切にして、共に生きようとする子どもを育てます。(公) ○コミュニケーションを通して、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開)			
	創立 27 周年	学校長 寺澤 みゆき	副校長 川本 佳織	2 学期制
学校概要	児童生徒数: 394 人		主な関係校: 奈良中学校	
		一般学級: 13		個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	奈良中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	奈良中学校 恩田小学校 奈良小学校	主体的・対話的な深い学びを推進する小中連携 ・小中児童生徒交流会: 中1授業参観、文化祭見学、部活動体験、生徒会役員交流、吹奏楽部の演奏会などを通して、環境の違いや小中のつながりを考えます。 ・小中教職員交流: 授業参観・研究会、教科別交流会・ブロック教務主任会などの情報交換などを通して、学校間の差異を認識するとともに、ブロック内の統一性や教育観を共有します。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学習過程の中で、自ら問題を発見し、仲間と協働しながら解決手段を見出す力を育てます。 ・発達段階に合わせた教科等横断的に育む資質・能力を明確にし、各教科領域において力を伸ばす指導を行います。 ○まちの「人」とのつながりを大切にし、豊かな体験を通して、自分らしさを発揮しようとする力を育てます。 ・生活科や総合的な学習の時間などの体験的な学習を軸に、他者と主体的につながり、学びを深めていきます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①学習状況調査や学校評価アンケートの結果を分析し、家庭とも連携しながら、育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。②「人とのつながりを大切にする子」を目指して、子どもが思いや考えを伝え合ったり議論したりする場を適切に位置付けた授業に取り組む。
徳 豊かな心	①道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②人権・福祉教育を通して人権感覚を高める。③縦割りグループ、主にペア学年を中心とした異学年交流活動を通して思いやりや協力する心、責任感を育成する。④保育園との交流事業を充実させ、相手意識をもった豊かななかかわりをもつようにする。⑤重点研では、自分らしさを発揮しつつ、「人」とのつながりを大切にした国語科の学習を展開する。
体 健やかな体	①体力テストの結果を継続的に健康手帳に記録し、残していくことで、自分の体に向き合う時間を確保し、体育科の指導に生かしていく。②年間を通じた「ふれあい体育活動」に取り組みを継続したり、多くの児童が参加できるような「桂ギネス」を実施したりすることで、体を動かすことの楽しさや喜びを感じられる機会を設定する。
公 地域連携 学校運営協議会	①中学校ブロック学校運営協議会を軸として、近隣校及び地域とのつながりをより活性化し、連携の充実を図る。②学校HPや動画配信等を活用し、適切な方法で学校の教育活動を保護者・地域に広く発信していく。③地域の催しやおやじの会主催のイベント等に参加し、連携を深める。
いじめへの対応	①些細な兆候を見逃さないよう、日頃から児童の様子や人間関係の把握に努める。年間計画に位置付けたアンケートも活用し、児童支援専任を中心に職員間で情報共有を図り、いじめの予防と早期発見につなげる。②事案(「疑い」を含む)が起きたときには、専任を中心にSCも含めた教育相談体制で指導にあたる。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①チーム学年経営導入3年目、学年内の教科分担制を全学年に拡大し、チームマネージャー及び各ブロックチームリーダーを中心に、より質の高い授業の提供と教員の業務負担軽減を目指す。②ミライムを活用したペーパーレス化やスムーズな会議運営、スケジュール管理による教職員の多忙化解消を図る。③主幹教諭や第三ステージの教員が講師となり、メンターチームの自主的な活動を支援する。
児童指導	①桂小スタンダードを全職員で共有し、その必要性の共通認識をもとに指導にあたる。②職員会議内に児童理解の時間を定例化し、児童の状況を全教職員で共通理解する。③Y-Pアセスメント、学校生活アンケートを年間計画に位置付け、多面的な児童理解と具体的な支援・指導に生かす。
特別支援教育	①各ブロック(低・中・高・個別)のコーディネーターが中心となり、児童の情報共有をし支援にあたる。②個別の教育支援計画・指導計画の作成とその活用を図る。そのための研修を行い、合理的配慮や支援について具体的に考える場を設定する。③個別に配慮が必要な児童に対する支援体制を確立し、検討・改善を図る。
担当	
担当	
担当	